

第二十回 貴族院議事速記録第二號

明治三十七年三月二十六日(土曜日)

午前十時八分開議

議事日程 第二號 明治三十七年三月二十六日

午前十時開議

- 第一 臨時事件費支辨ニ關スル法律案(政府提出案)
議院送付 第一讀會
- 第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第三 陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法案(政府提出案)
議院送付 第一讀會
- 第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第五 記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案(政府提出案)
議院送付 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第七 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出案)
議院送付 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第九 明治三十六年勅令第二百九十一號承諾ヲ求ムルノ件(政府提出案)
議院送付 會 議
- 第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第十一 明治三十七年勅令第十九號承諾ヲ求ムルノ件(政府提出案)
議院送付 會 議
- 第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第十三 臨時事件費豫算外支出ノ件承諾ヲ求ムルノ件(政府提出案)
議院送付 會 議
- 第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付
- 第十五 防禦海面令承諾ヲ求ムルノ件(政府提出案)
議院送付 會 議
- 第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
議院送付

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

去ル二十一日議決シタル帝國海軍ノ戰功ニ關スル決議文ハ外征ノ帝國艦隊ニ傳致スルタメ同日之ヲ海軍大臣ニ送付セリ

去ル二十二日海軍大臣ヨリ左ノ文書ヲ受領セリ
外征帝國海軍ノ行動ニ關スル貴族院ノ決議書ヲ添ヘ艦隊へ通達可致旨御申越ノ趣了承感銘ノ至ニ堪ヘズ候則チ直チニ聯合艦隊へ通達方取計置候右不取敢御挨拶旁此段及御回答候也

明治三十七年三月二十二日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

貴族院議長公爵德川家達殿

去ル二十三日政府ヨリ「日露交渉ニ關スル往復」ヲ受領セリ

昨二十五日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

臨時事件費支辨ニ關スル法律案

明治三十六年勅令第二百九十一號承諾ヲ求ムルノ件

明治三十七年勅令第十九號承諾ヲ求ムルノ件

臨時事件費豫算外支出ノ件承諾ヲ求ムルノ件

陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法案

記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案

防禦海面令承諾ヲ求ムルノ件

臺灣事業公債中改正法律案

本日委員會ニ於テ當選シタル委員長及副委員長ノ氏名左ノ如シ

豫算委員會

委員長 伯爵正親町實正君

副委員長 男爵有地品之允君

請願委員會

委員長 男爵野村素介君

副委員長 子爵竹内惟忠君

〔國務大臣伯爵桂太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(伯爵桂太郎君) 諸君、本大臣ハ刻下ノ事局ニ方リマシテ諸君ト共ニ聖謨ヲ翼贊シ奉ルベキ責任ヲ有シマスルノチ光榮ト存ジマス、諸君、政府ガ東洋ノ平和ト帝國ノ權利ヲ將來ニ確保スルノ目的ヲ以チマシテ昨年七月以來聖旨ヲ奉ジ露國政府ト交渉ヲ重ネマシタル頗末ハ既ニ諸君ノ御承知ニナツテ居ルコトト存ジマス、此間政府ガ一ニ正義ト忍耐トニ依リマシテ平和ノ終局ヲ得ムコトニ努メマシタル誠意ハ各國民ノ洽ク諒トスル所デゴザイマス

ルト云フコトハ信ジテ疑ヒマセヌ、諸君、今日ノ場合ニ於キマシテハ舉國一致
一ニ聖旨ヲ奉戴イタシマシテ交戦ノ目的ヲ達シ勝ヲ全局ニ制シマシテ速ニ平
和ノ克復ヲ看ムト致シマスルハ實ニ帝國臣民ノ皆其志ヲ同ウスル所デアルト
信ジマス、政府ハ軍國ノ必要ニ應ズルタメニ諸案ヲ提出イタシマシタガ、諸
君ガ公平ナル審議ヲ盡サレマシテ速ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望イタシ
マス、諸君、開戦以來我忠勇ナル軍人ガ萬難ヲ冒シマシテ著々大功ヲ奏シマ
シタ所ノ報ニ接シマシタノハ諸君ト共ニ稱賀イタスベキコトト存ジマスル、
諸君ハ既ニ此議會ニ列シ優渥ナル聖詔ヲ奉ゼラレマシタガ本大臣等ハ諸君ト
共ニ一ニ軍國ノ大事ヲ翼贊イタシマシテ聖旨ノ厚キニ酬イ奉ラムコトヲ期ス
ル次第デゴザイマス

〔國務大臣男爵小村壽太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵小村壽太郎君) 今同本院ニ向ッテ日露交渉ノ開始ヨリ斷絶
ニ至ルマデノ經過ヲ報道スルノ機會ヲ得マシタノハ本大臣ノ光榮ト致ス所デ
ゴザリマス、諸君御承知ノ如ク明治三十三年義和團事變ガ圖ラズ北清ニ起リ
マシテ列國ハ其使臣及在留民救護ノタメ兵ヲ直隸ニ送リマシテ協同一致ノ行
動ヲ執リツツアルニ際シ露國ハ大兵ヲ滿洲ニ入レマシテ遂ニ其全部ヲ占領イ
タシマシタ次第デゴザイマス、其當時露國ハ滿洲占領ヲ以テ單ニ清國ノ叛徒
ヲ討伐スルタメ已ムヲ得ザルノ處置ト致シ決シテ征服ノ目的ニアラズ又滿洲
ニ於ケル清國ノ主權及領土保全ハ露國ノ飽クマデ尊重スル所ニシテ從ッテ又
滿洲ノ占領モ全ク一時的ノ事タルニ過ギザル旨ヲ屢宣言イタシマシタルニ
拘ラズ、露國ハ清國政府ニ迫リマシテ滿洲ニ於ケル清國ノ主權ヲ侵シ竝ニ列
國條約上ノ權利ト相容レザル性質ノ條約ヲ締結セシメント致シマシタルコト
ガ數回ニ及ビマシタ、帝國政府ハ其都度屢清露兩國政府ニ向ヒマシテ警告
スル所ガゴザイマシタガ結局三十五年四月ニ至リマシテ露國ハ清國政府ト滿
洲還附ノ條約ヲ締結イタシマシタ、其後露國ハ滿洲還附ノ準備ニ著手イタシ
マシテ其一部ハ既ニ實行イタシマシタガ昨年四月ニ至リマシテ俄ニ滿洲ノ行
政權還附及撤兵ヲ行フコトヲ中止イタシマシテ加フルニ清國政府ニ向ッテ新
ニ種々要求ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、斯ノ如ク露國ノ態度ガ俄ニ一
變イタシマシタノハ豫テヨリ滿洲ノ處分ニ關シ露國當路者ノ議論ガ二派ニ分
レテ居リマシタガ、遂ニ滿洲ノ永久占領ヲ主張イタシマスル一派ノ意見ガ其

勝ヲ制シタル結果デアラウト信ゼラレマス、抑、滿洲ニ於ケル事態ノ發展ハ帝
國政府ニ於テ最モ慎重ニ注意イタシマシタル次第デゴザイマス、御承知ノ
如ク韓國ノ獨立及領土保全ノ維持ハ帝國ノ康寧ト安全ノタメ緊要缺クベカラ
ザルコトデゴザイマシテ實ニ我帝國傳來ノ政綱ニ屬シテ居リマス、若シ露
國ガ滿洲ヲ併吞スルコトナリマスレバ韓國ノ存立ハ絶エズ侵迫ヲ被ムルコ
トナリマスシ又東洋ノ平和ヲ確保スルコトモ出來ナクナル次第デゴザイマ
ス、故ニ帝國政府ハ深ク國家ノ前途ヲ慮ルニ於テ一日モ速ニ露國ト交渉ヲ遂
ゲ日露兩國利益ノ相接觸シマスル地方、即チ滿韓兩地ニ於ケル相互ノ利益ヲ
友誼的ニ調理イタシマシテ、サウシテ將來兩國間ニ衝突ノ起ルベキ原因ヲ一
掃イタシマスルノハ東洋ノ平和ヲ鞏固ニシ帝國ノ權利利益ヲ確保スル所以ナ
ルヲ思ヒ本件ニ付キ露國ト交渉ヲ開クコトニ廟議一決イタシマシタ、即チ昨
年七月二十八日ヲ以テ露國政府ニ向ッテ我々希望ノアル所ヲ陳辯シ其贊同ヲ求
メマシタ次第デゴザイマス、然ルニ露國政府ニ於キマシテモ亦之ニ同意ヲ表
シマシテ露國外務大臣ハ本件ニ付キ商議開始ノ勅裁ヲ得タル旨ヲ回答イタシ
マシテ參リマシテ、因ッテ八月十二日商議ノ基礎トナルベキ條件ヲ提出イタシ
マシタ、其條件ノ重モナルモノヲ舉ゲマスレバ、第一、清韓兩國ノ主權及領
土保全ヲ尊重スルコトヲ相互ニ約スルコト、第二、清韓兩國ニ於ケル各國ノ
商業工業ノタメ機會均等ノ主義ヲ保持スルコトヲ相互ニ約スルコト、第三、
露國ハ韓國ニ於ケル日本ノ優越ナル利益ヲ承認シ日本ハ滿洲ニ於ケル鐵道經
營ニ付キ露國ノ特殊ナル利益ヲ承認シ併セテ第一項第二項ノ主義ニ牴觸セザ
ル限り各自ノ利益ヲ保護スルタメ必要ノ處置ヲ取り得ルコトヲ相互ニ約スル
コト、若シ之ガ爲メニ出兵ヲ要スル場合ニハ其兵員ハ實際ノ必要ニ止メ且ツ
其任務ヲ果シ次第直ニ召還スルコトヲ相互ニ約スルコト、第四、韓國ニ於ケ
ル改革及施政改善ノタメ助言及助力ヲ與フルハ日本ノ專權ニ屬スルコトヲ露
國ニ於テ承認スルコト、第五、今般韓國鐵道ヲ滿洲南部ニ延長シ東清鐵道及
山海關牛莊間鐵道ヲ聯結セシムルコトアルモノヲ阻礙セザルコトヲ露國ニ於
テ約スルコト、我提議ノ要點ハ唯今述ベマス通り此五箇條デゴザイマシタ、露
國外務大臣ハ我提案ヲ受取りマシタ後旬日ヲ經マシテ本件ノ商議ヲ東京ニ移
サムコトヲ突然發議イタシマシタ、然ルニ帝國政府ニ於キマシテハ本件ノ商
議ハ露京ニ於キマシテ露國當局者ト直接ニ之ヲ爲スヲ以テ事ノ進行上最モ便
益ト認メマシタノミナラズ丁度其前後ニ於キマシテ露國ハ極東ニ於ケル行政

組織ヲ變更シ新ニ極東總督ナルモノヲ設ケマシタニ依リ尙ホ更東京ニ談判ヲ移シマスコトハ不利益デゴザイマシテ満足ナル妥協ヲ得ルニ便ナラシムル所以ニアラズト信ジマシタカラ商議地移轉ノコトニ關シマシテハ露國政府ニ向ツテ再三反對ヲ致シタ次第デゴザイマス、然ルニ露國外務大臣ハ皇帝ノ外遊等ヲ理由ト致シマシテ我希望ヲ容レマセヌ、又我提案ヲ以テ大體談判ノ基礎ト致スコトニ付キマシテ露國政府ニ同意ヲ求メマシタガ、露國外務大臣ハ我提案ト追ッテ露國ヨリ提出スベキ對案トヲ併セマシテ之ヲ談判ノ基礎ト致スコトニ同意ヲ致シマシテ、又我政府ニ於キマシテモ此上談判開始ヲ遷延セシムルノハ不利益ト認メマシタカラ遂ニ商議ヲ東京ニ移スコトニ同意ヲ致シマシテ、同時ニ露國ノ對案ナルモノヲ一日モ速ニ提出サレムコトヲ要望イタシタ次第デゴザイマス、是レガ丁度九月ノ上旬デゴザイマシタ、其後殆ド一箇月モ遷延イタシマシテ漸ク十月ノ三日ニ至リマシテ露國ノ對案ニ接シマシタ次第デゴザイマス、露國ノ對案ノ要點ヲ舉ゲマスレバ、第一、韓國ノ獨立及領土保全ヲ尊重スルコトヲ相互ニ約スルコト、第二、露國ハ韓國ニ於ケル日本ノ優越ナル利益ヲ承認シ並ニ第一項ノ主義ニ牴觸セザル限リ韓國ノ民政ヲ改良スベキ助言及助力ヲ與フルハ日本ノ權利タルコトヲ承認スルコト、第三、日本ノ利益ヲ保護スル爲メニ露國ニ知照ノ上、韓國ニ軍隊ヲ派遣スルハ日本ノ權利タルベキコトヲ露國ニ於テ承諾スルコト、但シ其軍隊ノ員數ハ實際必要ノ數ニ止メ且ツ其任務ヲ果シ次第直チニ召還スルコト、第四、韓國領土ノ一部タリトモ軍略上ノ目的ニ使用セザルコト並ニ朝鮮海峽ノ自由航行ヲ迫害スベキ兵要工事ヲ韓國沿岸ニ設ケザルコトヲ相互ニ約スルコト、第五、朝鮮領土ニシテ北緯三十九度以北ニ在ル部分ヲ以テ中立地帶トナシ日露兩國孰レモ之ニ軍隊ヲ入レザルコトヲ相互ニ約スルコト、第六、滿洲及其沿岸ハ全然日本ノ利益範圍外タルコトヲ日本ニ於テ承認スルコト、大體此六箇條デゴザイマス、即チ露國ハ其對案ニ於テ韓國ノ獨立及領土保全ヲ尊重スルコトヲ約諾スルノハ異議ハゴザイマセヌケレドモ之ヲ清國ニ及ボスコトヲ拒ミ又清國ニ於ケル各國ノ商業工業ノ爲ニ機會均等ノ主義ヲ認ムルコトヲ肯ゼス加之滿洲及其沿岸ヲ以テ全然日本ノ利益範圍外タルコトヲ日本ニ於テ承認スルコトヲ求メタ次第デゴザイマス、又韓國ニ於ケル日本ノ自由行動權ニ種々ノ制限ヲ付シマシテ例ヘバ日本ノ利益保護上必要ノ場合ニ出兵ノ權利ヲ認ムルモ出兵ノ場合ニハ豫メ露國ニ通告スルコトヲ要シ又朝鮮領土ノ一部タリトモ軍略上

ノ目的ニ使用スルコトヲ拒ミ甚シキニ至リマシテハ北緯三十九度以北即チ朝鮮全領土ノ殆ド三分ノ一ニ當ル地域ヲ以テ中立地帶ト爲サムコトヲ提議シタ次第デゴザイマス、然ルニ滿洲ニ於ケル清國ノ主權及領土保全ノ維持ハ韓國ノ存立ノ爲ニ必要缺クベカラザルコトデゴザイマス、又此事タル露國自ラ任意ニ且ツ屢宣言イタシマシタル主義デモゴザイマス、又露國ヲシテ條約上ノ權利ヲ尊重セシメ、日本ガ列國ト共ニ商業上ノ利益ヲ全ウスルコトヲ必要ト認メマシタカラ是等ノ點ニ關シマシテハ飽クマデ我が主張ヲ維持スルコトニ決シマシタ、又韓國ニ關スル各條項ニ付キマシテモ一々必要ノ修正意見ヲ定メマシテ例ヘバ日本ノ出兵權ニ關スル制限ヲ削除シ又若シ中立地帶ヲ設ケルコトト致シマスレバ之ヲ滿韓境界ノ兩側ニ跨リマシテ南北各「五十」キロメートルノ地域ヲ以テ中立地帶ト爲スコトヲ提議スルコトニ決シマシテ、十月六日以來露國公使ト數回會見ヲ致シマシテ反覆辯論ヲ重ネマシタガ、或ル一部ニ付キマシテハ我修正ヲ容レマシタケレドモ根本ノ主義ニ付キマシテハ到底意見ノ一致ヲ見ルコトガ出來ナカッタ次第デゴザイマス、故ニ帝國政府ハ十月三十日ニ至リマシテ一ノ確定修正案ヲ露國ニ提出シ露國政府ノ再考ヲ促シタ次第デゴザイマス、其後在露公使ヲシテ再三再四露國ノ回答ヲ促サセマシタガ漸ク四十餘日ヲ經マシテ十二月ノ十一日ニ至リマシテ回答ニ接シタ譯デゴザイマス、帝國政府ニ於キマシテハ露國ノ回答ガ斯ノ如ク遷延イタシタノヲ深ク遺憾ト致シマシタガ、尙ホ其回答ノ内容ヲ見ルニ及ビマシテ一層深ク失望ヲ感ジタ譯デゴザイマス、其故ハ露國ハ其回答ニ於テ滿洲ニ關スル條項ヲ全然削除イタシテ、加之韓國ノコトニ關シマシテハ矢張り原主張ヲ其儘維持シテ居リマス、然ルニ帝國政府ガ露國ト交渉ヲ開キマシタ目的ハ先キニモ述べマシタ如ク東洋ニ於ケル日露兩國ノ利益ノ相接觸スル地點、即チ滿韓兩地ニ於キマシテ相互ノ關係ヲ明定シ將來兩國間ニ起ルベキ一切ノ衝突ノ原因ヲ一掃スルコトヲ期シマシタガ故ニ若シ滿洲ヲ協商ノ範圍外ニ置キマスストキニハ問題ノ一半ハ依然解決ヲ見ズシテ存留スルコトニナリマスルカラシテ、交渉開始ノ當初ノ目的ニ副ハナイ次第デゴザイマス、故ニ露國政府ニ向ッテ更ニ再考ヲ求メマシテ、又韓國ノ事ニ關シマシテハ領土保全ノ使用ニ關スル制限ヲ削除スルコトヲ重ネテ要求致シマス、又中立地帶ノコトニ關シマシテハ露國ニ於テ其地帶ヲ滿韓兩地ニ跨ラシムルコトニ不同意ナル以上ハ韓國ニモ亦之ヲ設ケザルヲ以テ至當ト考ヘマスカラシテ中立地帶

ニ關スル條項ヲ全然削除スルコトヲ提議イタシマシタル次第ゴザイマス、其後一月六日ニ至リマシテ露國ハ回答ヲ與ヘマシタガ、其回答ニ於キマシテモ亦韓國ニ關スル露國ノ原主張ヲ其儘維持シテ居リマス、即チ日本ガ韓國ノ領土ヲ軍略上ニ使用セザルコト又北緯三十九度以北ニ中立地帯ヲ設ケルコトヲ改メテ要求シテ居リマス、デ日本ガ此二箇條ヲ承諾スルコトヲ條件ト致シマシテ日本又ハ其他ノ國ガ清國トノ現行條約ノ下ニ得テ居リマスル權利及特權ノ享有ヲ阻礙セザルコトヲ承諾イタサウト云フコトヲ提議シタル次第デアリマス、即チ露國ハ滿洲ノ事ニ關シマシテハ我要求ノ一部ヲ容レタヤウニ見エマス、又滿洲ニ於ケル領土保全ノコトニ付キマシテハ何等言及スル所モゴザイマセヌカッタノデゴザイマス、假シ又露國ガ條約上ノ權利ヲ尊重スルコトヲ約諾イタシマシテモ滿洲ノ領土保全ヲ尊重スルコトヲ約諾イタシマセヌ以上ハ實際ニ於テ何等價值ノ無イコトナル次第ゴザイマス、ナゼト申シマスレバ條約上ノ權利ハ御承知ノ如ク主權ノ移轉ト共ニ消滅イタシマスルカラ滿洲ニ於ケル我條約上ノ權利ヲ維持スルニハ露國ヲシテ滿洲ノ領土保全ヲ尊重スルコトヲ約諾イタシマスル必要ガアッタノデゴザイマス、故ニ帝國政府ハ飽クマデ露國ヲシテ滿洲ノ領土保全ヲ尊重スルコトヲ約諾セシメ又韓國ノ事ニ關シマシテハ讓歩ノ餘地ガゴザイマセヌカラ飽クマデ我主張ヲ貫クコトニ決シマシタ、即チ一月十三日ヲ以テ再ビ露國ニ向ッテ再考ヲ求メタル次第ゴザイマス、其後在露公使ヲシテ再三再四露國ノ回答ヲ促サシメマシタガ、露國ハ帝國ニ回答ヲ與ヘザルノミナラズ一月三十一日ニ至リマシテモ尙ホ其回答ノ與ヘザルベキ期日スラモ指定シナカッタ次第ゴザイマス、交渉開始ヨリノ顛末ハ大略唯今申上ダ通りデゴザイマス、本件ニ付キマシテハ帝國政府ハ終始和協坦懷ノ精神ヲ以テ露國ニ接シマシテ、露國ノ提議モ帝國ノ緊切ナル利益ニ抵觸セザル限り成ルベク之ヲ容レ速ニ時局ヲ解決セムコトヲ期シマシタケレドモ、露國ハ常ニ謂ハレナク回答ヲ遲延シ又到底妥協ノ望ナキ修正ヲ提出イタシマシテ益々時局ヲ困難ニ陷レマシタル次第ゴザイマス、加之露國ハ一方ニ於テハ表面平和ヲ唱道シ和協ノ態度ヲ装ヒツツ他ノ一方ニ於テハ陰力ニ海陸ノ兵備ヲ盛ニシテ有力ナル軍艦ノ如キハ殆ド盡ク東洋ニ派遣シ又數萬ノ陸兵ヲ滿洲地方及其附近ニ増遣イタシマス、其他兵器、彈藥、糧食、石炭ノ買入、輸送等實ニ夥シイコトデゴザイマス、露國ノ言行ノ一致セ

ザルコト實ニ甚ダシク露國ガ徹頭徹尾和協ノ誠意ナク專ラ武力ヲ以テ我國ヲ屈從セシメムト期シマシタルコトハ毫毛疑ヒナイ所デゴザイマス、殊ニ一月下旬ニ至リマシテハ韓國ノ北境ニ於ケル露國ノ軍事的活動ハ益々急調ヲ呈シ來リマシテ、此上空シク時日ヲ經過スルニ於テハ、我國ハ到底恢復スルコトガ出來ナイ境遇ニ陷ルベキハ必然ノ勢トナリマシタ、帝國政府ハ衷心實ニ平和ヲ思フニ切ナリト雖モ、事茲ニ至リマシテハ最早一日ヲ緩ウスル能ハズ、實ニ已ムヲ得ザルガ故ニ最モ慎重ニ最モ周密ニ考慮ヲ加ヘマシテ、遂ニ露國トノ交渉ヲ斷絶シ、自衛ノタメ必要ノ措置ヲ執ルコトニ廟議一決イタシマシタル次第ゴザイマス、即チ二月五日ヲ以テ在露公使ニ發電イタシマシテ、本件協商ニ關スル交渉ヲ斷絶シ、自ラ迫害ヲ被リタル位置ヲ防衛スルタメ、併セテ帝國ノ既得權及正當利益ヲ擁護スルタメ最良ト思惟スル獨立ノ行動ヲ執ルコト、並ニ露國トノ外交關係ヲ斷絶シ、我公使館ヲ撤退スベキコトヲ露國政府ヘ通告スベキ旨ヲ訓令イタシマシタ、在露公使ハ其翌日即チ二月六日露國政府ニ向ッテ此通牒ヲ爲シタル次第ゴザイマス、日露交渉ノ顛末ハ概略唯今申シタ通りデゴザイマス、尙ホ詳細ノ事ハ本院ニ往復書類ヲ出シテ置キマシタカラ、其書類ニ付テ御承知アランコトヲ希望イタシマス

〔參照〕

外務大臣送付日露交渉ニ關スル往復別冊一部及御送付候也

明治三十七年三月二十三日

內閣總理大臣 伯爵桂 太郎

貴族院議長伯爵德川家達殿

日露交渉ニ關スル往復別冊一部並ニ及御送付候也

明治三十七年三月二十三日

外務大臣 男爵小村 壽太郎

貴族院議長伯爵德川家達殿

〔日露交渉ニ關スル往復書類ハ速記録第二號ノ別冊ニ掲載ス〕

〔男爵尾崎三良君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(伯爵德川家達君) 尾崎男爵ハ何デスカ

○男爵尾崎三良君 外務大臣ニ少シ質問イタシタウゴザイマスガ……唯今外務大臣ノ御演說ニ依リマシテ、是マデ日露交渉ノ顛末ヲ明白ニ致シマシタ、無論此往復文書ニ悉クアリマスルノデ、大抵是マデノ成行ハ承知イタシマシタ、段々此文書ニ付キマシテ見マシテモ、唯今ノ御演說ニ付キマシテモ、是

マデ當局者ノ御苦心ハ誠ニ我々謝スル所デアリマス、ガ茲ニ一ツ質問イタシ
タイノハ此滿洲領土保全ト云フコトハ、其利害ノ關係ト云フモノハ我國一個
デハナイ、列國殊ニ英米等ノ國ニ於テハ無論利害ノ關係ガ有ルコトデアリ、
且又此滿洲撤兵ト云フコトハ露國ヨリ屢ニ宣言ヲ致シテ、或ル時期ニ於テ撤兵
ナスルト云フコト、是ハ我帝國ニ向ッテノミ言フタノデハナクシテ、列強ニ
向ッテハ宣言シタノデアリマスガ、シテ見マスレバ此滿洲領土保全、滿洲
ノ撤兵ト云フコトハ我國獨リデ彼ヲ責ムベキモノデナクテ、列強ト共ニスベ
キ道理ガアラウト思ヒマスルガ、最モ其利害ノ關係ノ厚薄ト云フモノハ、我
國ハ接近シテ居ルダケニ、ソレダケ利害ハ最モ深クアリマスルガ、サリナガ
ラ英米等モ隨分交易上ノ利害ガ澤山アリマスルコトデアリマスルカラ、此事
ニ付テハ最初露國ト交渉ヲ御開キニナル前ニ當リテ是等ノ關係列國ト何カ御
協議ヲナサツタコトデアリマセウカ、又ハマルデ何モ話シセズニ唯ダ一人デ
之ヲ負擔シテ是マデ御交渉ヲナサツタコトデアリマセウカ、其邊ハ我々ハ局
外デアリマスルガ、甚ダ物足ラヌヤウニ感ジタノデアリマスガ、如何デアリ
マセウカ、其顛末ヲ承ルコトガ出來レバ大キニ我々ニ於テモ仕合セ致ス譯デ
アリマスルガ……

〔國務大臣男爵小村壽太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵小村壽太郎君) 唯今尾崎君ノ御問ニ御答イタシマスルガ、
仰ノ如ク滿洲ノ事ニ關シマシテハ日本ガ列國ト利害ヲ共ニ致シテ居ル點モゴ
ザイマスカラ抑、此滿洲問題ノ起リマシタ時カラ、即チ三年前カラ關係ノ有
ル列國トハ相談ヲ致シタコトモゴザイマス、併ナガラ御承知ノ如ク滿洲ニ關
スル利害ノ關係ト云フモノハ日本ハ此朝鮮ト云フモノヲ控ヘテ居リマスカラ
終始列國ト共ニスルト云フコトハ出來ヌコトデゴザイマス、列國ト共ニ行ケ
マスル點マデハ一緒ニ參ツタノデゴザイマス、是ダケ御答イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ議事日程ニ移リマス答デゴザイマスガ、尙
ホ御報告ヲ致ス點ガゴザイマス

〔男爵尾崎三良君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 唯今御報告ヲ致ス點ガゴザイマス

〔男爵尾崎三良君「チヨットモウ一ツ質問イタシタウゴザイマス」ト
述ブ〕

〔河田書記官朗讀〕

本月二十一日貴院ニ於ケル決議ノ趣ハ御申越ニ依リ其節聯合艦隊ハ通達方
取計置候旨及御回答置候處同艦隊ヨリ別紙ノ通答辭差出候ニ付茲ニ及御轉
送候間可然御取計相成度此段申進候也

明治三十七年三月二十六日

海軍大臣 男爵山本權兵衛

貴族院議長公爵德川家達殿

〔別紙〕

電信 三月二十六日東京著

聯合艦隊ハ去ル二十一日ノ決議ニ係ル貴族院ノ鄭重ナル頌詞ヲ辱フシ一同
感佩ノ至ニ堪ヘス尙ホ益々奮勵事ニ從ヒ終局ノ效果ヲ收メムコトヲ期ス
右謹テ答謝ス

明治三十七年三月二十五日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、大藏
大臣曾禰男爵

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

臨時事件費支辨ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十七年三月二十五日 衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

臨時事件費支辨ニ關スル法律案

第一條 臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、國庫債券ヲ發行シ、
特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

第二條 一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ二億八千萬圓以內トス

本法及明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依ル一時借入金、國庫債券及
特別會計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル爲必要ナル場合ニ於テハ前項
ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第三條 一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置
年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スル
モノノ外整理公債條例ヲ適用ス

〔國務大臣男爵曾禰荒助君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵曾禰荒助君) 本大臣ハ玆デ一言申上ゲマス、未ダ悉クハ衆議院ヨリ送付ニナツテ居リマセヌ案モゴザイマスルガ、今日政府ガ提出イタシマシタル所ノ大體ヲ申上ゲマス、時局ノコトニ對シテハ今更喋々ヲ要シマセヌガ今日マデノ時局ニ對シマシテ政府ガ執リマシタル所ノ財政上ノ處分ニ付キマシテ御承諾ヲ得ル件ガ先ヅ最初デゴザイマス、第二ニハ將來ノ時局ニ對シマシテ適切ナリト考ヘマスル所ノ費用ヲ提出イタシマシテ御協賛ヲ得ムト欲スルノデアリマス、又モウ一ツハ直接ニ軍國ノコトニ關係ハ致シマセヌガ即チ財政上ニ影響スル所ノ仕事ニナリマシテ已ムヲ得ズ此際提出シタモノガ一二件ゴザイマス、是ハ其案ヲ御覽ナサイマシタル直グニ分ルコトデゴザイマスルカラ別段説明ヲ要セヌコト考ヘマス、今日マデ執リマシタル財政上ノ處分ノ件ハ即チ事後承諾ヲ求メマス、將來ニハマダ衆議院カラ回ツテ來ヌノモゴザイマスガ、一面ニハ將來ノ軍費ノ豫算並ニ其軍費ニ應ズル所ノ財政上ノ處分即チ一面ニハ増稅ヲシテ又一面ニハ金ノ繰合セサスルト云フ二ツノコトデゴザイマス、大體ダケヲ申上ゲテ置キマス

○議長(公爵德川家達君) 別段ニ御發議ガゴザイマセネバ次ノ議事日程ニ移リマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ選舉、……是ハ規則ニ依リマシテ選舉ニナリマスルカ或ハ議長ニ於テ指名イタシマセウカ

○子爵曾我祐準君 議長指名ヲ望ミマス

○議長(公爵德川家達君) 諸君ノ御意見ハ如何デゴザイマス

〔議長指名ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 議長指名デ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議事日程第三ニ移リマス、通牒文ノ朗讀ハ省略イタシマス

陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長松田正久

陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法案

陸海軍ニ屬スル臨時事件費ノ會計ハ一般ノ歲入歲出ト區分シ臨時事件ノ終局マテチ一會計年度トシテ特別ニ之ヲ整理ス

○議長(公爵德川家達君) 別段御發議ガゴザイマセネバ次ノ議事日程ニ移リマス、特別委員ノ選舉……矢張り前ノト同様議長指名デ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 是ハ前ノ議案ト便宜ノタメ同一委員ニ付託シタイト思ヒマスガ如何デゴザイマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガ無ケレバ左様決シマス、次ニ議事日程第五

五

記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案
民法第三百六十四條第一項ノ規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適用セス

〔國務大臣波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(波多野敬直君) 本案ハ記名ノ國債ヲ目的トスル質權ニ付キマシテ民法第三百六十四條第一項ノ取除ケテ設ケテ第三債務者ノ通知及第三債務者ノ承諾ヲ得ル等複雑ナル手續ヲ省略イタシマシテ其取引ヲ簡便ナラシメル法案デゴザイマス、此改正ニ付キマシテハ豫テ實業家ノ希望モゴザイマス、且此場合ニ於キマシテ此改正ノ必要ナルコトハ諸君モ御同感ナラムト信ジマス、別ニ多辯ヲ須キマセヌ、速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 別段御發議ガゴザイマセネバ次ノ議事日程ニ移リ

マス、此特別委員ノ選舉モ議長指名デ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 次ハ議事日程第七

臺灣事業公債法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「二千五百萬圓」ヲ「四千百萬圓」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

五 大租權整理

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 是ハ此臺灣ノ大租權ノ整理ガ最早結了ヲ告グルニ至リマシタノデ其大租權ヲ整理イタシマスルト大租ノ權ヲ政府ノ方ヘ買上デマシテ、サウシテ其代リニ公債證書ヲ渡シマス、別段ニ此現金ヲ募集イタシマスノデハゴザイマセヌガ、其高ハ大凡六百萬圓バカリデゴザイマシテ此整理ガ整ヒマスルト臺灣ノ收入ガ増加イタシマス、從テ臺灣ノ會計ニ今日補充イタシテ居リマス部分ガ減少イタシマス、一方ニ於キマシテハ已ニ大租ノ整理ガ結了ヲ告ゲナムトイタシテ居リマシテ最早一日モ延バスコトガ出來ズ又一方ニハ軍國ノ用途ヲ幾分カ補フ次第デゴザイマス、故ニ提出イタシマシタ次第デゴザイマス、御協賛ヲ仰ギマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發議モ無イヤウデゴザイマスカラ議事日程第八ニ移リマス、是モ議長指名デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 是ハ便宜ノ爲メ日程第五ノ特別委員ニ付託イタシテハ如何デゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ハ無イト認メマス、次ハ議事日程第九

貴族院議事速記録第二號

明治三十七年三月二十六日

臺灣事業公債法中改正法律案 第一讀會
明治三十六年勅令第二百九十一號 議決ヲ求ムル件

明治三十六年勅令第二百九十一號
右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵徳川家達殿

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年十二月二十八日

內閣總理大臣兼	伯爵桂	太郎
海軍大臣	男爵山本權兵衛	
農商務大臣	男爵清浦	奎吾
大藏大臣	男爵曾禰	荒助
外務大臣	男爵小村壽太郎	
陸軍大臣	寺內	正毅
司法大臣	波多野敬直	
遞信大臣	大浦	兼武
文部大臣	久保田	讓

勅令第二百九十一號

第一條 軍備補充ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ特別會計

ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 京釜鐵道株式會社ノ線路工事速成ニ必要ナル資金ノ調達ニ便宜ヲ

與フル爲政府ハ同會社ノ發行スル債券ニ對シ元利仕拂ノ保證ヲ爲スコト

ヲ得

前項ニ依リ保證スヘキ債券ハ額面一千萬圓ヲ限リ其ノ利子ハ一箇年六分

以下トシ其ノ元金ハ三箇年据置爾後五箇年以内ニ償還スヘキモノトス

第三條 京釜鐵道株式會社ニ於テ工事ヲ速成スル爲特ニ要スヘキ費用ノ補

償トシテ政府ハ同會社ニ對シ百七十五萬圓ヲ補助スルコトヲ得但シ已ム

ヲ得サル事由ニ依リ其ノ金額ヲ以テ本項ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合

ナ生シタルトキハ仍四十五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ヲ以テ補償スヘキ費用ノ支拂ニ關シテハ特ニ詳密ナル監督規

程ヲ設クルモノトス

第一項ニ依リ補助スヘキ百七十五萬圓ノ財源ニ充ツル爲政府ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條及第三條ノ場合ニ於テ一時借入金又ハ國庫債券ニ附スヘキ利子ハ一箇年六分以下トシ償還期限ハ一時借入金ニ在リテハ二箇年以内、國庫債券ニ在リテハ五箇年以内トス
國庫債券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 是ハ昨年ノ十二月ノ二十八日ニ發布ニナリマシタ勅令第二百九十一號即チ憲法第七十條ニ依リマシテ政府ガ財政上緊急處分ヲ致シマシタモノデ、御承知ノ通り京釜鐵道ヲ速成スルノガ一箇條、ソレカラ陸海ノ軍費ヲ補充スルノガ一箇條デゴザイマス、之ニ伴ヒマスル所ノ支出ハ第十三ノ議事日程ニ於テ承諾ヲ求メテアリマシテ、此二ツハ聯關イタシテ居リマスカラ併セテ此段御説明ニ及ンデ置キマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二移リマス、此委員モ議長指名デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 此委員ハ第三ト同一ノ委員ニ便宜ノタメ付此シタイト思ヒマス

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガ無クバ左様決シマス次ハ議事日程第十一
明治三十七年勅令第十九號
右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

衆議院議長松田正久

貴族院議長公爵德川家達殿

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ軍事郵便物ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年二月五日

内閣總理大臣兼	伯爵桂	太郎
海軍大臣	男爵山本權兵衛	
農商務大臣	男爵清浦	奎吾
大藏大臣	男爵曾禰	荒助
外務大臣	男爵小村壽太郎	
陸軍大臣	寺內	正毅
司法大臣	波多野敬直	
遞信大臣	大浦	兼武
文部大臣	久保田	讓

勅令第十九號

第一條 軍事郵便ノ取扱ヲ開始シタル場合ニ於テハ左ニ掲グルモノヲ軍事郵便物ト爲スコトヲ得

一 戰時又ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ准スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊、軍艦、水雷艇、軍衙、軍人又ハ軍屬ヨリ發スル郵便物

二 戰時又ハ事變ニ際シ戰地又ハ之ニ准スヘキ地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル郵便物

三 前二號ニ掲グル者ニ宛テ發スル郵便物

第二條 前條第一號及第二號ニ依ル軍事郵便物ハ其ノ料金ヲ免除ス

第三條 第一條第三號ニ依ル軍事郵便物ハ料金完納ノモノニ限ル其ノ料金未納又ハ不足ノモノハ差出人ニ還付シ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第四條 軍事郵便物ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五條 軍事郵便物取扱ニ關スル損害賠償ハ命令ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六條 條約ニ依リテ取扱フ郵便物ニハ第二條乃至第五條ヲ適用セス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

〔政府委員田健治郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(田健治郎君) 此勅令第十九號ノ説明ヲ致シマスルガ、是ハ明治二十七年ノ勅令第六十七號デ軍事郵便ノコトガ規定ガシテアルノデゴザイマ

スガ、其規定ハ甚ダ不備デゴザイマシテ、詰リ海外ニ派遣スル軍隊軍艦若クハ軍人軍屬デゴザイマス、ソレダケノモノニナツテ居リマス、或ハ從軍者ナドカラ發スルコトハ出來ナイト云フコトガアリマス、ソレ等ノ類デ餘程不備ノ點ガ多イ爲ニ此度ハ之ヲ改正シマシテ十分ニ便利ヲ具ヘルヤウニ致シタ次第デアリマス、チヨット申上ダテ置キマス、

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二ニ移リマス、此委員モ議長指名デ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ第十三ニ移リマス

臨時事件費豫算外支出ノ件

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長松田正久

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發議モゴザイマセヌカヲ委員ノ選舉ニ移リマス、是モ議長指名デ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 是ハ便宜ノタメ第一ノ議案ト同一ノ委員ニ付託シタイト思ヒマスガ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガゴザイマセネバ左様決シマス、次ハ第十五

防禦海面令

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十七年三月二十五日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長松田正久

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ防禦海面令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年一月二十二日

内閣總理大臣兼	伯爵桂	太郎
海軍大臣	男爵山本權兵衛	
農商務大臣	男爵清浦	奎吾
大藏大臣	男爵曾禰	荒助
外務大臣	男爵小村壽太郎	
陸軍大臣	寺内	正毅
司法大臣	波多野敬直	
逓信大臣	大浦	兼武
文部大臣	久保田	讓

勅令第十一號

防禦海面令

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依ル防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之カ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ヲ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之カ解除ハ鎮守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入若ハ通航シ又ハ之ニ碇泊スル船舶ハ其ノ一切ノ行動ニ付所管鎮守府司令長官、要港部司令官ノ指示ニ遵フヘシ

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採藻其ノ他軍事上障害トナルヘキ行爲ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シ特ニ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解クコトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ違ハサルモノニ對シテハ必要ニ應シ兵力ヲ用ウルコトヲ得
第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員齋藤實君演壇ニ登ル〕

○政府委員(齋藤實君) 此防禦海面令ハ時局ノ切迫ニ際シマシテ必要ガ生ジマシタ爲ニ今年ノ一月二十二日ヲ以テ勅令第十一號デ緊急勅令トシテ發布セラレタモノノ承諾ヲ求ムルノデアリマス、御審査ノ上ニ速ニ御承諾アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ議事日程第十六ニ移リマス、此委員モ議長指名デ御異存ハゴザイマセカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長指名ニ決シマス、チヨット諸君ニ伺ツテ置キタウゴザイマスガ、第一ノ議事日程ノ特別委員ノ人數ハ矢張り九名デゴザイマシタカ又ハ定規ノ委員ヨリ増ス方ガ宜シイト云フ御意見デゴザイマシタカ、ツイ議長ガ伺フノヲ忘レマシタガ此際諸君ニ伺ヒマス

〔通常デ宜カラウト思ヒマス〕九名デ宜カラウト思ヒマスト述ブル者アリ

〔男爵尾崎三良君〕議事日程ノ始マル前ニ質問ナシカケマシタガ、議事日程ニ入ツタモンデスカラ……ト述ブ

○議長(公爵徳川家達君) 御待チテ願ヒマス、唯今ノ第一ノ特別委員ノ人員ハ九名デ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ此際議長ニ御委託ニナリマシタ委員ノ氏名ヲ御報道ニ及ビマス

〔太田書記官長朗讀〕

臨時事件費支辨ニ關スル法律案外三件特別委員

伯爵正親町實正君 子爵谷 干城君 子爵牧野 忠篤君

男爵北垣 國道君 男爵南岩倉 具威君 富田 鐵之助君

武井 守正君 山本 達雄君 田中 源太郎君

記名ノ國債ノ目的トスル質權ノ設定ニ關スル法律案外一件特別委員

伯爵大原 重朝君 子爵稻垣 太祥君 名村 泰藏君

男爵石黒 忠惠君 男爵辻 健介君 湯地 定基君

南郷 茂光君 山田 卓介君 橋本 吉兵衛君

明治三十七年勅令第十九號承諾ヲ求ムルノ件特別委員

子爵青山 幸宜君 子爵鳥居 忠文君 男爵船 越 衛君

男爵鈴木 大亮君 男爵新田 忠純君 中島 永元君

奥山 政敬君 野崎 武吉郎君 鎌田 勝太郎君

防禦海面令承諾ヲ求ムルノ件特別委員

子爵久留島 通簡君 子爵松平 直平君 男爵永山 武四郎君

男爵小澤 武雄君 淺田 德則君 男爵有地 品之允君

男爵島津 珍彦君 男爵紀 俊秀君 中山 文樹君

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ少々定メ兼ねマスカラ決定イタシ次第諸君ニ御報道イタシマス、明日ハ無論議事ヲ開ク積リデアリマスカラ其事ヲ御承知テ願ヒマス、本日ハ散會

午前十一時十八分散會